

会 議

静閑堂主人

もろもろの会議が頻繁に開催されている。大変結構だが、内容の充実したものから、通り一辺のものまで千差万別のようなものである。

印刷物が配布されて、主催者の一方的説明で聴手の意見の発表もなく、あとでよく研究して置いてくれと云う説明会みたいなものがあるが、後日これに対する意見の発表の機会はめったにないようである。予め資料を与えて置いて、よく検討せしめてからの会議ならば、意義があるかも知れないが、それにしても意見の発表と論争の伴わない会議は意味が薄弱である、と角、意見を物申すには限られた仁である。主催者側をやっつけるのも楽しみに出席するのはどうかと思うが、活気のある会議はよいものである。

又中にはだんまり屋で、むずかしい顔で、目をとじて、解ったのか、解らないのか了解に苦しむ仁があるかと思うと、げらげら笑ってばかり居る仁や、やたらに感心してばかり居る仁もある。併し酒気を帯びての毒舌は、いやな感じを会場に与えたので甚だ面白くない。

会議には運営の2つがあるようだ。長たらしい説明で、「いねむり」と「あくび」の連続が見られるようでは、これは主催者の責任であろう。

ずるい所謂海千山千の主催者になると、困難な問題が生じた場合に、と角、懇談の席でとにげる。この懇談の席ではむやむやになり勝である。この懇談では、先刻のだんまり屋が、がぜん迷論やら反対論を飛ばして案外する事があるが、それなら会議の席上で堂々とやればよいのに、既に決定した後で、ぐだぐだ云うのは意味がない。どんな理由があるにせよ卑怯である。この酒宴に意義があると云う人があるが、私は不賛成だ。

又あまり人数の多い会議もどうかと思う。代表者による円たく会議ならば、発言も多いだろう。

会議自体に重点が置かれなくて、あとの所謂懇談が主な場合は、やたらに意義なしの連呼が聞かされる。時には議案の説明が終りもしないのに、「異議な

し」と発言して失笑をかう場合がある。日本の会議はやたらに経費がかかりすぎるのは、この時間に制限のない懇談会がつき勝ちだからであろう。

総意をまとめて、仕事を円滑に進める上に於いて会議は行なわれるのであるが、その内容、進め方について、もつと会議が成長して戴きたいものである

会議に出席する人達は爾前によく研究して、受ける方も自分の意見をまとめて置いて発言し、論議が遺憾なくつくされるべきである。そして、その決定には心よく服して行く会議マナーを近代人は身につけるべきであろう。

こうなると会議に意義が出てくるし、又会議の効果も測定出来よう。私は外人達の会議に列席した事があるが出席者は揃って、だれにも遠慮せずに堂々と発言するし又その会議の秩序が保たれていたらする事がなく進行し、決定事項は即時実行に移されるのに、ほとんど感心した事がある。これに比較すると、最近会議の様相はよくなったようなものの、一般に時間の観念が薄いし、又浪花節的会議が存在している向が多い。

こう書いてくると、会場を、一つの雰囲気を作成するように思われて来た。日本座敷と洋間ではちがうし、事業場と旅館では全然異った感じが出てくる。だからと云って、あまり堅くるしいのも閉口だが、活気のないのも面白くない。会議の近代化もむずかしいかなである